

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105099号
法人名	医療法人 松柏会
事業所名	グループホーム てまり
訪問調査日	平成 21 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 22 年 1 月 16 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105099号		
法人名	医療法人 松柏会		
事業所名	グループホーム てまり		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 山田町 441番地 (電話) 099-284-4800		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成21年12月19日	評価確定日	平成22年1月16日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 7人	非常勤 13人 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	Tsukasa Health Care Hospital	高田歯科医院
---------	------------------------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、同敷地内に母体医療機関と老人保健施設があり、医療面でのサポート体制や併設施設との交流も活発に行われている。2階建てのため、各ユニットでは入居者と職員の交流があり、馴染みの関係ができており、安心して過ごせる環境となっている。入居者間も仲がよく、明るく生き生きと生活している。管理者は「パーソンセンタードケア」を基本とし、職員が「常に考え、新しい発見を生み出す」気づきを大切にすることを重視しながら、職員の資質向上を図っている。職員は、入居者が穏やかで楽しく過ごせるよう「笑顔と尊厳」をモットーにチームワークで取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みでは、年間研修計画を立て、外部内部研修、新人研修を実施し、同業者との交流を通じた向上については、地区の勉強会等で事例検討会を行い、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に全職員で自己評価を実施し、自己のケアの振り返りを行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても検討改善が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では入居者の状況報告を行う他、毎月講師を依頼し、救急蘇生や高齢者の食事に関する講習等を開いている。また地域委員より地域の情報を聞く等、活発に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や行事で家族が訪問する際に、意見や要望を聞いている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設施設のクリスマス会・誕生会・夏祭り・春祭り等の行事に参加し、ホームの行事にも併設施設より相互訪問している。また地域の文化祭に入居者の作品を出展したり、小学生のサマーボランティアを受け入れる等、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「常に考え新しい発見を生み出す」「開かれたサービスで地域とのふれあいを大切にする」等の地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所やリビングに掲示している。毎週月曜日の朝礼時に唱和を行い、新しい発見をするための考えを出し合いながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設施設のクリスマス会・誕生会・夏祭り・春祭り等の行事に参加し、ホームの行事にも併設施設より相互訪問している。また地域の文化祭に入居者の作品を出展したり、小学生のサマーボランティアを受け入れる等、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に全職員で自己評価を実施し、自己のケアの振り返りを行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても、検討改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の状況報告を行う他、毎回講師を依頼し、救急蘇生や高齢者の食事に関する講習等を開いている。また地域委員より地域の情報を聞く等、活発に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは入居者の状況についての情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談員も受け入れ、入居者へのサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や行事の機会を利用し、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。遠方等の家族には、電話や手紙で報告している。てまり便りは年に2～3回発行している。職員の異動についても家族に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事で家族が来所の際に、意見や要望を聞いている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	男女の職員のバランスを考えて、ユニット間で異動することもあるが、両ユニットでは、日頃より入居者と職員の交流があり、馴染みの関係ができており、ダメージを防ぐ配慮も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、新人教育用の行動マニュアルを作成し、2ヶ月に1回勉強会を行っている。外部研修会は常勤者が交代で参加し、伝達講習も行っている。内部研修は事例検討会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームの勉強会に参加して意見交換を行ったり、他グループホームに職員が半日研修に行く等、サービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には家族と一緒にホームの見学をしてもらい一緒にお茶を飲んだり、レクレーションをして、場の雰囲気に馴染めるよう配慮しながら、安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有している。世間話や昔話をする中でも、入居者から「やさしさやいい言葉が一番のごちそう」とおそわったり、おはぎ作りや野菜の切り方を学んだり、一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で、表情から気持ちを察したり何をしたいのか具体例を出しながら、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を聞いたり、担当者会議で職員の気づきや意見交換を行いながら、個々に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しを行っている。状態変化時の随時見直しも行っている。計画を有効にするため、カードックスに計画書と記録用紙を入れ、職員の認識を深める工夫を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、通院の支援や墓参・初詣で・外食・外出等の支援を行うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。また適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」や同意書がある。入居時に家族に説明を行うと共に、重度化した場合には、その都度本人・家族・主治医で話し合いを行い情報を共有し、支援する体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者の個人情報の管理の重要性に留意し、職員から個人情報保護の契約書を取っている。日々のケアの中で、自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、食事の時間や食事の場所を自室に変更したり、入浴時間の配慮をしている。また買い物や病院受診・新聞・乳酸菌飲料の注文等、個々の希望やペースに合わせた柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや味見・配膳・下膳・台拭き・食器洗い等、職員と一緒にいながら、食事を楽しめるよう支援している。誕生日には、本人の希望する食事のメニューにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、希望者は毎日入れる体制をとっている。本人の希望に合わせて、午前午後と柔軟に対応しながら、週3回は入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、家事・野菜作り・イモ掘り・習字・三味線・新聞を読む等、好きな事を取り入れ楽しめるよう工夫している。また花見や夏祭り・敬老会・クリスマス会等、季節毎の行事を取り入れたり、毎日のリハビリ体操も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝のごみ出しやホーム周辺の散歩・買い物・初詣で・花見・外食・文化祭・バザー・ドライブ等、外出の機会を多く作りながら、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りながら日中は玄関の鍵をかけず自由な暮らしを支援している。帰宅願望の強い方は、一緒に歩いたりドライブするなど工夫しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の病院や施設と連携をとりながら、法人全体の避難訓練が年1回行われている。ホーム内では毎月夜間を想定した自主訓練を行っている。職員寮も近くにあるため、応援体制もできている。災害時の備蓄も用意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量を記入し、水分も1日1200mlの摂取を目安にしている。月1回体重測定を行い、栄養士や主治医に相談しながら、必要な栄養の確保を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファや机・椅子が置かれ、タタミのスペースにはコタツが用意している。広い窓があり、日差しの調整をするために、遮光カーテンも工夫している。室内には季節の花も飾られ、温度調整や換気も行われ居心地の良い共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド・タンス・布団・椅子・健康器具・テレビ・ラジオ・化粧道具・仏壇・ぬいぐるみ・写真・花・鉢等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。